

スターゼンの第2四半期、安定供給と注力商品強化で増収増益

スターゼンは2日、平成30年3月期の第2四半期決算を発表した。連結の業績は売上高が1656億3500万円（前年同期比11・1%増）、営業利益は29億1千万円（20・1%増）、経常利益は36億8千万円（21・0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益が25億4800万円（21・0%増）となった。食肉関連事業は、国産牛肉・国産豚肉の相場高が続いており、国産鶏肉や輸入食肉への需要シフトがみられる環境の中、安定した供給体制のもとで注力商品を中心とした販売強化を行った結果、売上高は1642億5800万円（11・2%増）。主な部門別業績は次のとおり。

【食肉部門】国産牛肉は、市況は前年を下回ったが、積極的な拡売を行った結果、売上高は前年を上回った。国産豚肉は、供給量が引き締まり相場が高値で推移する中、安定的な集荷・生産体制のもとで拡売を進めた結果、売上高は前年を上回った。国産鶏肉は、消費者の健康志向の高まりや牛肉・豚肉からの需要シフトなどにより引き合いが強く、売上高は前年を上回った。輸入牛肉は、輸入量が前年を上回り、国産牛肉の相場高の影響も受けた結果、販売量を大きく伸ばし売上高は前年を上回った。輸入豚肉は、輸入量が前年を上回り、国産豚肉の相場高の影響も受けた結果、販売量の拡大により売上高は前年を上回った。輸入鶏肉は、価格優位性から加工原料需要が高まり、相場が前年を上回って推移した結果、売上高は前年を上回った。これらの結果、食肉部門の売上高は1324億1100万円（10・8%増）となった。

【加工食品】ハンバーグ、ローストビーフ、ローストポークを中心に販売が引き続き好調に推移した結果、売上高は前年を上回り、241億4400万円（18・2%増）となった。

【ハム・ソーセージ】業務提携先との連携を高め、効率生産と販売量拡大を進め、売上高は前年を上回り68億6700万円（6・6%増）となった。

「組織改編・人事異動」MCGグループ新たに「社長室」を設置

ミート・コンパニオン（MC）グループは10月1日付で、社長直轄の組織として新たに「社長室」を設置した。「社長室」はMCGグループ内組織（各部門間）の取りまとめ、横断的な連携や調整、経営企画、人事、広報、営業戦略、新規事業の立案、秘書機能、および社長業務全般のサポート機能を役割とする。また、同社では10月1日、11月1日付で次のとおり人事異動を発令した。

【㈱ミート・コンパニオン】（10月1日付）社長室 室長 富岡達矢▽社長室 秘書担当係長 丸山智美▽（11月1日付）ミートパッカー部 次長 安次領徳雄▽ミートパッカー部 神奈川事業所 所長代理 両角淳▽原料商品部 次長 伊藤逸太▽原料商品部 海外事業課 課長代理 永村和久▽社長室 営業戦略担当係長 岡部真紀。

【㈱アグリス・ワン】（11月1日付）役員 取締役 音田敏彦。